筑波大学特別支援教育連携推進グループ

令和７年度現職教員研修　中間報告会の様子

（専門性向上コース・１年）

令和７年９月１１日（木）、附属聴覚特別支援学校を会場とし、現職教員研修（専門性向上コース）の中間報告会を行いました。現職教員研修生の宮木沙絵先生（北海道帯広聾学校）が、今年度取り組まれている「聴覚障害幼児同士のやりとりを育む指導者の関わり方に関する研究」の経過や、附属聴覚特別支援学校での実践実習第１期（５月１２日～７月１８日）の成果について発表されました。

附属聴覚特別支援学校の先生方にも多数ご参加いただいたのに加え、他の附属学校の先生にもお集まりいただきました。オンラインでの配信も併用し、ご参集が難しい先生や附属学校教育局の先生方にもご参加いただきました。発表に関する質疑応答の時間には、参加された先生から研究の分析に関する貴重なご意見をいただきました。また、実習の際に配属された学級の先生は、実習中のことを振り返り、「宮木先生は子どもとの信頼関係をよく築かれていた」と話をしてくださりました。最後に、附属聴覚特別支援学校長の伊藤僚幸先生から講評として、「表情や口形の見せ方など聴覚障害児教育の基本として重要な技術が整っている」という、宮木先生の授業の良さについて触れていただきました。それに加えて、先行研究を見る上での留意点および分析の進め方についてのご助言や、励ましのお言葉もいただきました。

１年間の現職教員研修も、後半に入ろうとしています。今回の中間報告会で先生方からいただいたご助言や温かいお言葉を励みに、宮木先生が今後の研修をより有意義に進めていかれますように、連携推進グループもサポートして参ります。

発表される宮木先生

会場の様子

中間報告会の様子